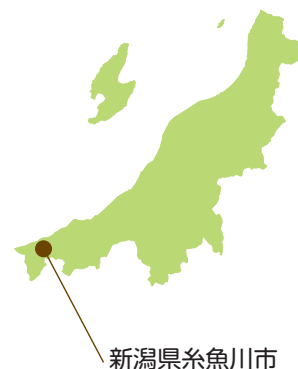


# 株式会社あぐ里能生

※2016年3月現在

代表者名	日野 富保	資本金	4百万円
設立年	2007年2月6日	売上高	58百万円(2015年4月期)
事業内容	生産(稲作)、消費者直売、 加工・製造(せんべい等)、 観光・交流、作業受託	経営規模	田30ha、施設181㎡、 加工場45㎡
従事者数	9人(うち女性4人。女性内訳:一般職2人、常勤パート2人)		
女性活躍支援	[女性に配慮して取組んでいる制度] 休暇(産前産後・生理・育児・介護)、短時間勤務制度 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係(屋内・野外トイレの設置)、重労働等の業務改善、 技術・知識の習得支援		



## 経営概況

(株)あぐ里能生は、糸魚川市能生の上南地区(旧能生町)にある水稻単一経営の全量直販路線をとる経営体である。コメ生産、作業受託、コメの消費者直売、せんべい等の加工・販売に加え、2015年度から新たに田んぼオーナー制度を創設し、観光・交流にも取り組んでいる。

代表者の日野富保氏は、中山間地である上南地区の地域農業を守るべく、2007年に法人を立ち上げた。現在の規模は、田30ha、育苗等の施設181㎡、2014年11月に建設したせんべい加工場45㎡。2015年4月期の売上は5,800万円である。

農業従事者数9名で役員は1名、9名のうち女性従事者は4名(一般職2名、常勤パート2名)である。2012年春から顧客管理・営業経験の知識のある女性を採用し、さらに2014年からは県農業大学校卒業生の女性を採用し、現在に至る。

## 1. 経営者の意識改革

あぐ里能生は当初男性ばかりの職場だったが、安定的なコメの直販先を確保するため、顧客管理の経験があり、対外的な対応に優れた人材として、女性の能力が必要であると感じていた。

また、周年雇用の確立とさらなる6次産業化を進めるため、2014年に手焼きせんべい製造施設を導入するにあたり、加工・販売部門で確実な事業展開を図ることが必要になった。具体的には、新規販売先の確保と、せんべいの製造や新商品の開発・直売等の積極的な取り組みである。それには消費者目線での商品の販売など、女性の感性を経営に取入れることで、会社の経営発展に繋がると考えた。

採用した30代の女性従事者の一人は、新聞折込チラシや戸別訪問等の積極的な営業活動により新規顧客を獲得し、さらに、DMやHPの作成、



顧客のデータベース化をすすめ、再販率の向上に貢献している。米価下落による産米への影響は大きいですが、消費者への販売割合は85%を確保しており、生産量に大きな伸びがないなかであっても、近年の販売単価は安定している。

女性社員雇用の前年度との比較で、販売額が35%増加した。波及効果として、男性従業員も消費者的な目線を持つようになり、職員全員で事業展開に取り組む体制づくりができた。

また、6次産業化に向けた手焼きせんべいの商品化に向けても、女性を活用することで、いい影響がみられた。包装・表示パッケージの作成や、販売戦略の社内意見のとりまとめ、および製造部門も含めた揚げせんべいの新商品開発に中心的な役割を担い、初年度から一定の販売額を確保することができた。

## 2. 女性従事者のキャリアアップ

女性従事者が担当しているのは、顧客の管理や注文の受付発送等が重要な業務である。それには、農業知識に加えて、顧客管理、顧客への対応能力等、幅広い資質が求められる。そのため、県が主催する6次産業化セミナーや経営セミナー、アグリキャリアアップ講座等、外部の研修に積極的に派遣し、女性職員の能力開発や自身のスキルアップにつながるように配慮している。また、社員が期待以上の役割を担ってくれていることから、給与に反映できる仕組みも整えた。

## 3. 子育て・出産に係わる制度

新たに女性の雇用をするために、育児や介護などをしながらでも仕事ができるように、両立支援の仕組みなどをつくった。採用された女性は、育児との両立支援の仕組みを利用し、弾力的な勤務時間や時間短縮等の工夫で4人の育児もしている。勤務時間中は自身の役割をきっちりと行い業務の拡大に貢献してくれている。

## 4. 女性が働きやすい環境の整備

全員参加で行っている30分の定例ミーティング時間を活用し、職員の意見交換やアイデア・改善点等を出し合う場づくりに継続して取り組んでいる。主である水稻栽培は重労働が多く、男性のみで作業体系を組んでいたが、従事者間の仕事の負担軽減のために、業務体系を見直す話し合いの場を設けた。これにより、互いに仕事をカバーし合うことができるようになり、職場の和やかな雰囲気づくりにも繋がった。女性が加わり会社全体の創意の向上や職場環境の改善が進み、当社全体のイメージアップや業績の改善が図られた。

また女性職員の採用に当たり、女性専用トイレを屋内と屋外に設置、更衣室には女性専用エリアを設けるなど作業環境改善を実施。重労働等の業務の改善のため、技術・知識の習得支援も行っている。

### 審査委員の声

女性がいかに経営に貢献しているか、男性経営者が数値も含め具体的に把握している点が非常に印象的。直販のみで行われる米の販売は、顧客管理・営業経験の知識のある女性を雇用した結果、リピートが2割アップ、販売額も35%増加している。また4児の子育てと仕事の両立を図る女性従業員による柔軟な勤務体制と時間短縮による生産性アップで、男女かかわらず消費者目線を持つこと、事業をよくしていこうというチーム運営が定着しているとのこと。重労働である水稻の生産部門にも積極的に改善を進め女性もかかわるよう工夫している。女性が農業にかかわる可能性を信じ、結果にもつなげている点、販売など顧客接点のみならず生産現場への巻き込みは多くの水稻農業事業主の参考となる例である。